

ロボット競技 「目標は世界」



チームRKブラザーズ

県内の小学4年～高校1年生の6人で結成された「チームRKブラザーズ」が、昨年12月に福岡県であったロボット競技大会の予選「ファーストロゴリーグ九州大会」で総合1位に輝いた。メンバーたちは2月12日に東京大学で開催される全国大会に向けて「好成績を上げたい」「目標は世界」と声をそろえ、準備と練習に気合を入れている。

(南部報道部・国吉聰志)

九州V 全国へ意気込む

同リーグは9～16歳の青少年を対象にした国際大会で、国内大会はNPO法人青少年科学技術振興会が主催。チームRKブラザーズのメンバー6人は、ロボット科学やプログラミングを学ぶ教室「キックス×クレフアス」サンエーつかざんシティ校(南風原町津嘉山)に週2回通い、練習を重ねてきた。同大会には県内唯一の参加で、12チームがエンブリーした九州大会を制した。

競技は自作の自律型ロボットで2分半の間に指定されたフィールド上のミッション攻略を目指す「ロボットゲーム」と、ロボットのコンセプトや与えられた課題の解決などを発表する「プレゼンテーション」の2部門に分かれ、両部門の総合評価で競い合う。ロボット製作にはレゴの製品を使わないといけない。ロボットにはモーター

やセンサーを制御するコンピューターが付いており、参加者は自作のプログラムコードを入力してコントロールする。チームリーダーで沖縄工業高校1年の新垣翔太郎さんは(16)は「ロボットにアタッチメント(道具)を付け、どのルートを通らせて効率よくミッションをこなすかが鍵だ」と説明する。

与那原小6年の湧武大也さん(12)は「道具やプログラムは10回トライして全て成功しないと採用しない」と胸を張った。

副リーダーで沖尚中3年の喜瀬青也さん(15)は「シンプルでロボットに付けやすい道具を追求し、全国大会で好成績を上げたい」と意気込んだ。

同校責任者の津波克教さん(36)は「学年もばらばらのチームだが、練習する度にまとまってきた。世界を目指して羽ばたいてほしい」と激励した。

①「チームRKブラザーズ」の(前列左から)湧武大也さん、喜瀬青也さん、宇根仁士郎さん、(後列左から)町田憲星さん、喜瀬青也さん、新垣翔太郎さん(②全国大会を控え、ロボットをフィールドに置いて動きを調整する喜瀬青也さん(左)＝11日午後、南風原町津嘉山のキックスクレーファス・サンエーフカンサンシティ校)